CAMPUS NEWS RIKKYO NIIZA

No.81

— November 2019 —

- 特集 1 -

留学体験　対談

留学は自分を強くする

- 特集 2-

留学生ホストファミリー体験談

異文化体験の第一歩

- 特集 3-

Hot News

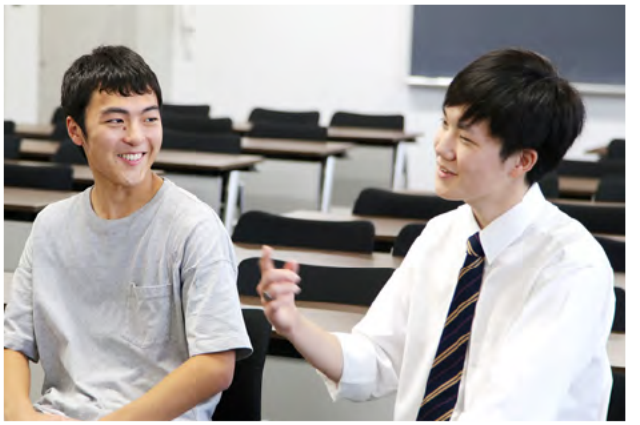
ワンターム留学制度を新設

- 特集 4-

卒業生インタビュー

夢の実現に向け、海外の大学へ

立教新座中学校・高等学校



SPECIAL DISCUSSION

【留学体験　対談】

留学は自分を強くする

立教新座ではさまざまな海外研修・留学プログラムに参加できます。高校生対象の長期留学は、提携校に学校代表として通う「派遣留学」と、自分自身で留学先を選んで行く「私費留学」があります。今回は派遣留学生としてアメリカで1年間学んだ影山くんと、私費でフランスに1年間留学した萩野くんに、留学した理由や現地でのエピソード、今後の目標について語り合っていただきました。

高校３年　影山 晃大

Kodai Kageyama

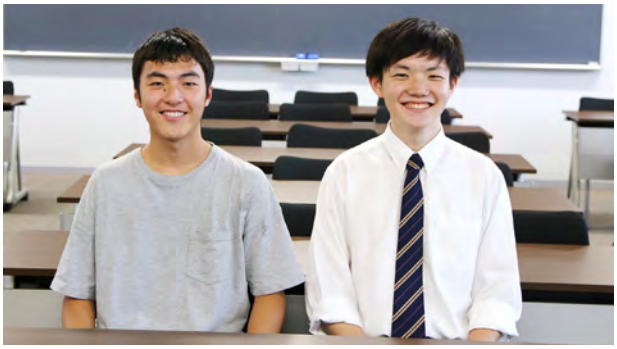
高２の夏から１年間、派遣留学生としてアメリカ・メリーランド州St.Paul's Schoolへ留学。

高校３年　萩野 沙二

Sani Hagino

高２の夏から１年間、フランスの高校「Lycée Alain（リセ・アラン高校）」に私費留学。

「大丈夫。行けばなんとかなる」思い切って行ってよかったです



留学することで視野を広げたい

影山：中3の夏休みに立教の留学プログラム「アメリカ・サマーキャンプ」、高1の夏休みに「オーストラリア短期留学」に参加しました。この短期留学の中で楽しい思い出がたくさんできたので、今度は「現地での生活を存分に味わってみたい」と、St. Paul's Schoolへ1年間、留学することを決めました。

萩野：ぼくは、カナダに留学経験のある兄の「留学に行ってよかった」という話に背中を押されました。フランスを選んだのは、文化やスポーツに興味があったのと、英語以外の語学を身につけたいと思ったからです。留学先ではフランス語での生活が待っているので、高2の4月から週1でフランス語の教室に通いました。出発前は少し会話を聞き取れるようになったものの、まだまだ不安な状態。「行けばなんとかなる」と開き直って出発しました(笑)。

影山：ぼくは出発までの数カ月間、週に1,2回、学校でネイティブの先生に英会話を教えてもらいましたが、改めてあれこれ準備をすることはありませんでした。最終的には萩野くんと同じように「なんとかなる。現地に行ってからもまだまだ学べるから大丈夫だ」と思っていました。

留学最初の1カ月は必死で勉強

萩野：フランスの高校では「転校生」のような扱いで入りました。クラスメイトが話しかけてくれても、最初は聞きとることで精一杯。でも話さないと相手にしてくれないので、最初の1カ月は、授業も日常会話も必死に勉強し、とにかく笑顔で積極的に話しかけるようにしました。そのうち、隣りに座った子と、日本のアニメや漫画の話を通じて仲良くなり、そこから友だちの輪が広がっていきます。一緒にフットサルをしたり、ボルダリングをしたりして、徐々にリラックスして過ごせるようになりました。

影山：ぼくも最初の1カ月は必死です。食事や生活スタイルに慣れるのもそうですが、やはり現地の英語は全然違いましたね。特に大変だったのは、ディスカッションの授業です。向こうでは率直に発言をすることが当たり前。その雰囲気に気圧されて、つい話を「聞く」姿勢になってしまいました。先生からの「授業態度が消極的だ」というコメントを見て、「これではいけない」と奮起し、そこからは積極的に意見を述べ、議論に参加するように。最終的には5段階中4の評価をもらうことができました。

ホストファミリーや友だちとの楽しい時間

影山：St. Paul's Schoolは、丘一つ分がまるごと学校というような敷地です。ホストファミリーの家はボルチモアという自然に囲まれてたエリアにあったことから、伸び伸びと生活することができました。週末にはホストファミリーとハイキングに行ったり、現地の友だちと映画を観たりゲームをしたりして過ごし、日常生活そのものが充実していました。

萩野：ぼくも週末はホストファミリーや友だちと出かけました。中でも印象に残っているのが、エッフェル塔、凱旋門、ルーブル美術館です。留学前からフランスの文化に触れるのを楽しみにしていたので、実際に見るととても感動しました。

留学したことを進路選択や将来につなげたい

萩野：ぼくは他大学進学クラスに所属していて、他大学を受験する予定です。留学を考えたときから、この留学で語学力をつけて受験につなげようと考えていました。入試科目ではフランス語を選択するつもりです。大学では、フランス語をもっと深めるか、スペイン語に挑戦するか、語学を学び、将来もそれを生かしていけたらと思っています。

影山：ぼくは立教大学へ進学する予定です。大学では英語圏以外の国へ留学したいですね。今回、留学したことで、英語のListeningとSpeakingはある程度できるようになったと実感していますが、Writing、Readingの力はまだまだなので、今はその勉強をしています。

1年間の留学を通じて成長を実感

影山：「ここでやるしかない」という強い意思が持てるようになり、何にでも挑戦しようと思うようになりました。

萩野：自分に自信が持てるようになりました。フランス語で日常生活を送るなんて想像もしていませんでしたが、一つ一つのやりとりを積み重ね、自分の力でやり遂げられたことに大きな達成感を味わいました。

影山：語学力は日本でも身につきますが、行かないと分からないこと、経験できないことがたくさんあります。「留学したいけど迷っている」という人には、「ぜひ思い切って挑戦して」と伝えたいです。

【留学生ホストファミリー体験談】

異文化体験の第一歩

立教新座では、年間を通して、アメリカやオーストラリア、南アフリカの提携校4校から留学生を受け入れており、授業や課外活動など、学校生活を共に送ります。留学生は生徒のご家庭にホームステイをします。2019年度も6月にアメリカのSt. Paul's Schoolから、9月にオーストラリアのAquinas Collegeからの留学生が来校し、多くのご家庭が滞在先として受け入れてくださいました。今号では、ホストファミリーを体験した生徒の声をお伝えします。

高校１年　遠藤 洋平

Yohei Endo

2019年度St. Paul's Schoolホストファミリー
（6月21日から2週間）

父の仕事の関係で海外にて生まれ育ち、外国の方々との関わりが多かったので、立教新座でもそれを継続してきました。ホストファミリーは中1からなので、今回で4度目になります。初めて受け入れた中1のころは、留学生が「お兄さん」という感じでしたが、今年は同い年ということで、すぐに打ち解けられました。2週間の滞在中、週末は家族で東京タワーや中華街に出かけました。時には、国の文化による違いを話すことでお互いの価値観を知ることができ、勉強になったと感じています。何度経験しても、毎回違った出会いがあり、思い出ができますね。帰国後も連絡を取り合うことができ、世界中に友だちができているようでとても楽しいです。今回はぼくたちが受け入れをしましたが、「今度は自分たちが歓迎するよ」と言ってくれました。今後は、留学プログラムへの参加も視野に入れて、英語の勉強を頑張りたいと思います。

中学１年　橋本 羚直人

Renato Hashimoto

2019年度 St. Paul's Schoolホストファミリー
（6月21日から2週間）

中学受験も終わり、新しいことにチャレンジする第一歩としてホストファミリーの受け入れをすることにしました。留学生のイアンくんに初めて対面したとき、背の大きさに驚いたと同時に、優しそうだと感じました。特に思い出に残ったことの1つ目は、ほかの留学生とそのホストブラザーズと一緒に東京タワーに行ったこと。観光したり天丼を一緒に食べたりしながら、イアンくんの通うSt.Paul'sの話を聞くことができ、とても興味深かったです。2つ目は、テレビゲームで盛り上がったことです。普段は真面目なイアンくんも一度ゲームを始めると、ぼくと同じように騒いでいてより仲良くなりました。ホストファミリーの受け入れを通して、改めてコミュニケーションの大切さを学ぶことができました。今後はさらに多言語を勉強し、いろいろな国の人とコミュニケーションをとりたいです。

高校１年　野崎 理人

Rihito Nozaki

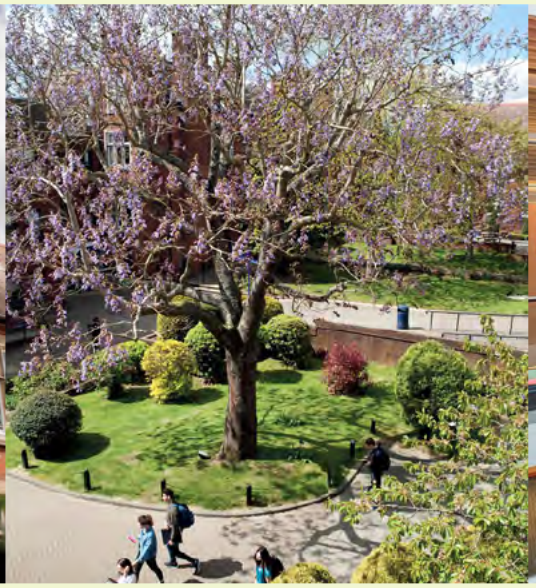
2019年度 Aquinas Collegeホストファミリー（9月14日から4日間）

母が大学で、海外の成人教育について教鞭をとっていることもあり、以前からホストファミリーの受け入れ制度に関心を持っていました。今回初めて申し込んだのは、高校1年生になり、同い年の留学生を受け入れるということで、「やってみたら」と母に言われたのがきっかけです。ぼくが受け入れたイーサン君は、オーストラリアからの留学生。事前にメールやチャットで滞在中の過ごし方を聞いたところ、「どうしても行きたい」とリクエストされた秋葉原へ行きました。彼にとって期待通りだったようで大喜び。初めは緊張していましたが、ぼくもアニメやゲームが好きなので共通の話題で盛り上がり、次第に打ち解けて話せるようになりました。4日間はあっという間です。もっと英語でコミュニケーションがとれたらよかったと思うこともありました。もっと話せるようになって、今度は長い期間の受け入れをしてみたいです。

高校生対象

ワンターム留学制度を新設

Hot News



イギリスの公立高校コリヤーズ・カレッジ(The College of Richard Collyer)は、立教英国学院と共同プロジェクトとして、日本の高校生を4カ月間受け入れる「高度文化交流プログラム」を発表。2020年度から立教新座高等学校もこのプログラムに参加することで、ワンターム留学制度が実現しました。

対象者は、2019年度入学の現高校1年生。募集人数は2名で、学校派遣として学内選考により選抜されます。生徒は、コリヤーズ・カレッジで開講されている40以上の科目から4科目を履修、現地の生徒と共に授業を受け、宿題や学内テスト、内部評価も現地生徒と同様に受けることになります。留学期間は、高校2年の2学期、9月～12月の約4カ月です。この期間は「休学」扱いとし、留学後は同学年の3学期から復学します。

本校では短期語学研修や1年間の派遣留学など多様な海外プログラムを実施していますが、ワンタームの留学は初めて設置されます。

COLLYER'S
The College of Richard Collyer

コリヤーズ・カレッジ(The College of Richard Collyer)は、1532年に創立されたイギリスの商業都市ホーシャムにある男女共学の公立高等学校で16～18歳の生徒が約2000人と留学生60人が学ぶ伝統校です。イギリスの教育監査局による査察で、「Outstanding(最優秀)」と評価されました。

留学期間　高校2年生の2学期、9月～12月の4カ月

募集人数　2名以内

費用(概算)

授業料(秋学期:9～12月のみ)　£2,950 (¥383,500)
ホームステイ(1週間　£150×16週として)　£2,400(¥360,000)
※1ポンド　130円として換算
※その他、往復の旅費、教材費、個人の小遣い等の諸費用がかかります
※費用は2018年度のものです

奨学金

給与奨学金(在籍学年度留学期間の本校授業料および維持資金の合計額相当分)が給与(返還不要)されます。

選考方法

高校1年11月に説明会を実施。1月に第1次、2月に第2次選考、最終選考(保護者同伴の校長面接)を行います。

夢の実現に向け、海外の大学へ

【卒業生インタビュー】

2018 年度卒業生
鍋田 龍郎
Tatsuro Nabeta

［プロフィール］
2016 年 4 月　立教新座高等学校入学
2019 年 3 月　立教新座高等学校卒業
2019 年 9 月　米国ミネソタ州立大学へ入学

英語しか話さない状況に身を置きたい ――――――――――――
そう思ったことがアメリカの大学へ進学しようと思ったきっかけです。また、高3のときに「立教大学特別聴講生制度」を利用して大学の授業を受けていたので、日本の大学の雰囲気は知ることができていました。大学でもおもいっきり勉強に打ち込みたいと思い、私にはアメリカの大学が合っていると思いました。そして大学進学は自分の人生のためにも自分で決めたいと思って決断ました。

両親は最初海外への大学進学に賛成ではありませんでしたが、エージェントを自分で見つけて相談に行くなど、実際の私の行動を見て本気であることを感じ、最後は応援をしてくれました。

海外の大学は日本に比べ学費・寮費が高いので、奨学金を得るために勉強したり、英文での自己推薦文を書いたり、入試を決めたのが高3の11月と遅かったので準備は急ピッチで進めていきました。自己推薦文で自分の経験を自信につなげて人に伝える作業は、今後の留学生活でも非常に役に立つと思います。立教新座の先生方は、時期的に無謀とも言える決意を認めてくれ、推薦文の英文をチェックしてくださるなど、全力で応援してくれて、とても感謝しています。

大学では「国際学」を専攻したいと思っています。高3の自由選択科目でスペイン語を履修して、言語だけでなく中南米の文化も学びました。貧困層が多く、こどもたちが質の高い教育を受けられていないことを知り、世界の子どもたちに等しく質の高い教育を受ける機会を作れる人になりたいと考えるようになりました。高3では、大阪大学法学部が主催する国際公共政策コンファレンスに参加し、「日本の教育格差の是正」をテーマに研究発表をしました。教育の格差をテーマに研究できたことで、さらに興味を深めることができました。

私は立教新座高校に入学した当初、自由な雰囲気にとまどいました。でも、自由にできるのであれば好きな勉強をやればいいと考え、自分のペースで勉強をしていました。さらに英語部に所属して「英語ドラマフェスティバル」（全国高校生英語会連盟主催）に参加したりしました。また、前述の国際コンファレンスでは一つのテーマに一定期間じっくりと取り組むことができ、大学教授や大学院学生を前にプレゼンしたことは、とてもよい経験でした。高校生で大学の授業を履修することができたのも、やはり進路を考える上ではとても参考になりました。また、今の私の夢は、スペイン語を履修したことがきっかけです。このような特殊な選択授業も立教新座ならではのものだと思います。

立教新座は、自分で決めて、自分で進むことのできるところです。自由である分、責任もあります。自分の進路は、周りの人の意見や環境のせいにはできないので、いつかは自分で決めなくてはなりません。自分の目標や夢を持ち、親への感謝を忘れずに、その実現に向けて進んでいってほしいと思います。

＜公式 Web サイト・SNS について＞
本誌の内容は、本校 Web サイトや SNS でもご覧いただけます。また、Web サイトや SNS では、本校での出来事など、日々の学校生活の様子が垣間見られるような情報や写真を発信しています。ぜひ、ご覧ください。

RIKKYONIIZA

※在校生への緊急時のお知らせは「立教新座配信メール」で確認してください。

CAMPUS NEWS
RIKKYO NIIZA
キャンパスニュース 立教新座

2019 年 11 月 8 日発行　第 81 号
発行／立教新座中学校・高等学校　教務・入試広報課
〒352-8523　埼玉県新座市北野 1-2-25
TEL.048-471-6648［入試窓口］
https://niiza.rikkyo.ac.jp/